

産業観光施設及び農業施設の今後の方向性について

資料 2 - 1

カテゴリー	施 設	現 状	使用・利用形態 の方向性	保有形態 の方向性	進め方	○：現実計画方針と一致 ×：現実計画方針と異なる
大規模集会施設	勤労者総合福祉センター (野田川わーくばる)	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：直営 ・耐用年数到達：令和 2 4 年 ・利用者数：29, 312人 (R4) ・管理費 (R4) (支出) 9, 951千円 (収入) 2, 003千円 収支＝△7, 948千円 ・長寿命化改修工事概算：約200, 000千円 	継続	複合化 (検討)	比較の利用度も高い施設であり、地域の拠点施設としての機能を考慮しつつ、他の公共施設との統廃合を検討していくことが必要。令和 2 4 年までに長寿命化改修工事を実施し維持していく。運営面においては、管理コスト及び使用料など料金水準を早急に見直すことが必要。	○
その他集会施設	産業創出交流センター	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：直営 ・耐用年数到達：令和 6 年 ・利用者数：155件 (R4) ・管理費 (R4) (支出) 1, 749千円 (収入) 187千円 収支＝△1, 562千円 	多用途への転用 (検討)	譲渡・売却 (検討)	平成29年度から運用を開始しており、令和 4 年度までの間、町の直営で管理運営を行っている。近隣の類似施設が民間運営によって様々な可能性を生み出している中で、行政として本施設が必要なのか、改めて検討する必要がある。	×
体験・レクリエーション施設	かや山の家	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：指定管理 ・耐用年数到達：平成 2 5 年 (※R2長寿命化工事) ・利用者数：5, 061人 (R4) 内訳 宿泊＝1, 471人 日帰り＝3, 590人 ・管理費 (R4) (支出) 2, 917千円 ・施設収支 収入＝27, 823千円 支出＝25, 620千円 収支＝2, 203千円 	継続	譲渡・売却 (検討)	令和 2 年度に長寿命化改修工事を実施。徐々に利用者も増え人気の高い施設であり、地域の拠点施設としての機能を考慮し維持することが適当。運営面においては、指定管理者制度により管理運営を行っているが、収益を求めていく施設でもあるため、現指定管理者に自立を促し、施設の譲渡・売却に向けた調整が必要である。	×
体験・レクリエーション施設	大内峠一字観公園	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：指定管理 ・耐用年数到達：令和 1 8 年 ・利用者数：2, 559人 (R4) ・管理費 (R4) (収入) 12, 670千円 (内指定管理料＝3, 906千円) ・施設収支 収入＝12, 670千円 支出＝12, 164千円 収支＝506千円 	継続	建物：譲渡・売却 (検討)	利用者も多く人気の高い施設であり、地域の拠点施設としての機能を考慮し維持することが適当。運営面においては、指定管理者制度により管理運営を行っているが、収益を求めていく施設でもあるため、より民間活力 (PPP/PFI等) に委ねていくことを検討する必要がある。	×

カテゴリー	施 設	現 状	使用・利用形態 の方向性	保有形態 の方向性	進め方	○：現実計画方針と一致 ×：現実計画方針と異なる
体験・レクリ エーション施設	野田川ユースセンター (※京都府施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：町直営（R5～） ・耐用年数到達：令和13年 ・利用者数：4,118人（R4）※内宿泊：734人 ・管理費（R4）（収入）23,348千円 （内指定管理料＝12,813千円） ・施設収支 収入＝23,348千円 支出＝19,657千円 収支＝3,691千円 ※管理費、施設収支は野田川森林公園分を含む	多用途への転用	継続	<p>令和4年度まで指定管理者制度により管理運営を行ってきた。以前は宿泊者等の利用者も多く比較的人気の高い施設であり、地域の拠点施設としての役割を果たしていた。しかしながら、コロナ禍で大きく利用者は減少し、今後も合宿利用が少なくなってくること、運営も赤字経営が続くことが推測でき、このままの形態では管理運営が難しいこと。また、施設の老朽化もあり、施設全体を現在の用途で活用するには、大規模な修繕が必要であるが、町の財政事情も厳しい中、令和5年度から貸館業務のみ直営で行っている。</p> <p>本施設については、町内部にプロジェクトチームを立ち上げ、どう活用をしていくべきか議論を進めている状況である。現在は、観光施設（宿泊施設）ではなく、行政財産としての他の活用ができないかなど検討中である。</p> <p>なお、京都府の財産であるため、令和6年度を目途に無償譲渡していただけるよう、京都府と調整していく。</p>	○
体験・レクリ エーション施設	加悦双峰公園	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：町直営管理 ・耐用年数到達：令和14年 ・利用者数：2,333人（R4） ・管理費（R4）（収入）4,251千円 ・施設収支 収入＝4,251千円 支出＝5,742千円 収支＝△1,491千円 	継続	建物：譲渡・売却 (検討)	<p>近年は利用者も多く人気の高い施設。</p> <p>現在は、基本構想に基づくリニューアル計画を着実に進めていく方向であるが、まずは災害復旧工事を優先させて実行。運営面においては、長年町直営で管理を行っているが、民間事業者による管理運営を行うべきと考えている。一般財源負担を軽減できるような管理運営形態また収益を求めていく施設でもあるため、より民間活力（貸付、譲渡・売却も含め）に委ねていくことを検討。</p>	○
体験・レクリ エーション施設	池ヶ成キャンプ場	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：直営管理 ・管理費（R4）（支出）20千円 	多用途への転用	継続	<p>近年は、キャンプ場も閉鎖をしている状況。しかしながら、大江山登山のルートの一つであるため、直営で管理運営を行っている。</p> <p>老朽化した便所等の撤去が必要となっているため、撤去後にキャンプ場条例の廃止が必要。（※要地元調整＝大江山登山ルートの一つであるため、キャンプ場としては廃止する方向であるが、登山者のために池ヶ成公園としては存続する方針である。管理方法等、地元温江区との調整が必要と考えている。）</p>	×
体験・レクリ エーション施設	リフレかやの里（本館機能）	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：直営（R5～休業中、管理委託） ・耐用年数到達：令和30年 ・利用者数：28,246人（R03,コロナ時） 61,888人（H27,ピーク時） ・管理費（R4）：27,306千円 ※直営（運営は業務委託） 	継続	譲渡・売却 (検討)	<p>施設設置目的が依拠する計画、条例等との整合性と地域の理解を得ながら、官民の競争的対話により、許容できる範囲での改修と持続的な運営形態、協働手法などの合意点を導き出して運営事業者を決定、必要に応じて施設改修等を実施し令和7年度早期の運営再開を目指す。</p>	○

カテゴリー	施 設	現 状	使用・利用形態 の方向性	保有形態 の方向性	進め方	○：現実計画方針と一致 ×：現実計画方針と異なる
体験・レクリ エーション施設	クアハウス岩滝	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：町直営（R5～） ・耐用年数到達：令和24年 ・利用者数：95, 941人（R4） ・管理費（R4）（収入）91, 042千円 （内指定管理料＝38, 133千円） ・施設収支 収入＝91, 042千円 支出＝100, 168千円 収支＝△9, 126千円 	継続 （直営→指定管理）	譲渡・売却 （検討）	<p>令和4年度まで指定管理者制度により管理運営を行ってきた。現在は、町の直営で管理運営を行っているが、町の直営では適正な管理運営が難しいため、令和7年度以降は指定管理者制度での管理運営を行っていく計画である。</p> <p>しかしながら、施設の維持管理経費など今後も多額の管理運営経費（5, 000万円以上／年間）が必要となり、現在の施設規模、用途では収益ベースに持つて行くことは非常に困難と考えられる。</p> <p>温泉という町民の財産を活用し、できる限り施設の設置目的を大きく逸脱せずに民間活力で管理運営ができないか等、指定管理者制度と並行して検討していく。</p>	○
体験・レクリ エーション施設	加悦生産物販売施設 （かや道の駅）	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：指定管理（R5～） ・耐用年数到達：令和10年 ・利用者数：64, 341人（R4） ・管理費（R4）（支出）7, 102千円 	継続	継続	<p>令和4年度までは、町直営での管理。令和5年度から指定管理者制度に移行。</p> <p>農産物のブランド化を推進・展開する重点エリアに立地し、「海の京都観光圏整備実施計画」の交流地区としても指定されていることから、本施設を活用した新たな管理運営により、雇用の創出、交流人口、関係人口の増加に期待がもてる施設である。</p> <p>また、地域の愛着も深く、地域農業者にとっても欠かせない地域活性化施設となっている。</p> <p>地域の農業振興という面からも農家所得の維持確保、耕地面積の維持、担い手の育成などにも貢献している施設であり、「道の駅」のネームバリュー、町の農産物、特産品や観光資源を活かして、観光客等を呼び込み、地域に仕事を産み出す地域活性化の「拠点施設」として継続する必要がある。</p>	○
体験・レクリ エーション施設	ちんざん	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：指定管理 ・耐用年数到達：令和14年 ・利用者数：一人（食品製造のみ） ・管理費（R4）：39千円 	継続	譲渡・売却 （検討）	管理計画の方針により現指定管理者との協議を継続する。	○
体験・レクリ エーション施設	織物技能訓練センター	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：町直営管理 ・耐用年数到達：平成26年 ・利用者数：手織＝延べ515人、力織機＝延べ177人（R4） ・管理費（R4）（収入）194千円、（支出）1, 446千円 ・施設収支 収入＝194千円 支出＝1, 446千円 収支＝△1, 252千円 	継続	継続・広域連携	町直営での管理。町内の織物職人の養成ができる施設であり、今後、賃機の廃業が進み親機が内製化を進めるうえでも必要となってくる施設である。施設の老朽化が進んでいるため、施設の改修が必要となってくるが予想されるが、今後、本施設をどのように管理運営すべきかを丹後産地全体で検討を進める必要がある。（R5年度から）	×

カテゴリー	施 設	現 状	使用・利用形態 の方向性	保有形態 の方向性	進め方	○：現実計画方針と一致 ×：現実計画方針と異なる
体験・レクリ エーション施設	染色センター	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：町直営管理 ・耐用年数到達：平成29年 ・利用者数：延べ128人（R4） ・管理費（R4）（収入）59千円 （支出）1, 676千円 ・施設収支 収入＝59千円 支出＝1, 676千円 収支＝△1, 617千円 	多用途への転用	譲渡・売却 （検討）	<p>町直営での管理を行っているが、利用者ニーズが非常に少なく利用率が非常に低い。</p> <p>今後は、京都府、京丹後市、丹後織物工業組合等と連携し、「京都府 織物・機械金属振興センター」「織物技能訓練センター」「染色センター」それぞれの施設の役割、必要性を再確認し、施設を共同で管理運営ができないかなど丹後産地 全体の織物振興支援体制や関連公共施設相互の連携強化について協議・検討を行い、その中で、今後の 染色センターの活用方法を決めていきたい。</p> <p>こういった議論を進めて行くにあたり、令和6年度については一時休館の方向で調整中。</p>	×
体験・レクリ エーション施設	木工加工施設	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：直営 ・耐用年数到達：令和2年 ・利用者数：1団体（R4） ※使用料料等収入236千円 ・管理費（R4）：79千円 	多用途への転用	譲渡・売却 （検討）	令和4年度に条例を廃止し普通財産化したため産業観光施設の位置付けからは外れている。今後は用途廃止後の事務手続きに従い、売却、譲渡、賃貸、除却等の処分について判断していくこととしている。	○
生産加工施設	農産加工施設	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：直営（行政財産の一部貸付） ・耐用年数到達：令和18年 ・稼働状況（R4）：通年稼働 ・管理費（R4）：リフレ本館に含む 	継続	譲渡・売却 （検討）	本館機能の進捗とは切り離し、(福)よさのうみ福祉会による独立運営を念頭に施設の売却等を目指す。	○
生産加工施設	有機物供給施設	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：直営 ・耐用年数到達：令和23年 ・肥料生産量（R4）：255.1トン ・管理運営費（R4）：40,275千円（歳出） 17,568千円 （歳入：肥料売上） 	継続	継続	特色ある地域農業推進のための基幹施設として、これからも運営を継続する。食品加工残渣などを地域資源として活用した新たな土づくり資材の生産によって環境保全型農業の拡大を図り、将来的には民間活力の導入による運営の健全化を目指す。	○
生産加工施設	大豆・米乾燥調製施設	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：指定管理 ・耐用年数到達：令和25年 ・利用者数：239件（R4） ・管理費（R4）：670千円 ・運営収支（R4）：847千円 	継続	譲渡・売却 （検討）	施設売却を前提とした運営について、指定管理者との協議を継続し、早期売却等を目指す。	○
生産加工施設	地域農産物等活用型交流施設	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：直営（行政財産の一部貸付） ・耐用年数到達：令和15年 ・稼働状況：通年稼働 ・管理費（R4）：70千円 	継続	譲渡・売却 （検討）	農産加工施設と同じ。	○

カテゴリー	施 設	現 状	使用・利用形態 の方向性	保有形態 の方向性	進め方	○：現実計画方針と一致 ×：現実計画方針と異なる
生産加工施設	ツバキ育苗温室	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：直営（管理委託） ・耐用年数到達：令和25年 ・利用者数：1団体（R4） ・管理費（R4）：112千円 ※施設管理分 	継続	譲渡・売却 （検討）	ツバキは町の木でもあり、現時点で地域でツバキの育苗を継続する意思があるため施設の売却等について協議を進める。	○
大規模公園	阿蘇シーサイドパーク	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：町直営 ・利用者数：30, 801人（R4） GG場：3, 691人（R4） ・管理費（R4）（支出）7, 831千円 ・施設収支 収入＝918千円 支出＝7, 831千円 収支＝△6, 913千円 	継続	継続	<p>会計年度任用職員を3名雇用し、町直営で管理運営を行っている。</p> <p>阿蘇シーサイドパークでのイベントが増えているため、現状では駐車場が狭くなっている状況。また、公園遊具の老朽化、駐車場の白線引きなど管理面での経費が必要となっている。</p> <p>今後、指定管理者制度、パークPFI制度の導入などを検討する必要がある。（R5：内閣府を通じ民間事業者に支援をいただきながら、ゼロ予算でPFI制度等の研究等を実施中。</p>	○
大規模公園	阿蘇シーサイドパーク グラウンド・ゴルフ場		多用途への転用	譲渡・売却 （検討）		○
大規模公園	野田川森林公園	<ul style="list-style-type: none"> ・運営形態：町直営（R5～） ・耐用年数到達：令和10年（管理棟）、令和15年（屋内交流広場） ・利用者数：6, 834人（R4） ・管理費（R4）（収入）23, 348千円 （内指定管理料＝12, 813千円） ・施設収支 収入＝23, 348千円 支出＝19, 657千円 収支＝3, 691千円 <p>※管理費、施設収支は野田川ユースセンター分を含む</p>	継続	継続	<p>令和4年度まで指定管理者制度により森林公園内に立地する野田川ユースセンターと一緒に管理運営を行ってきた。森林公園は開園当初から地域住民をはじめ町民のための公園施設として運営してきたが、近年は遊具の破損が頻発しており、近い将来、管理棟や屋内交流広場（屋根）などの大規模改修を行う必要がある。</p> <p>野田川ユースセンターについては、町内部にプロジェクトチームを立ち上げ、どう活用をしていくべきか議論を進めている状況であり、森林公園についてはこれとは切り離して、引き続き、これまでの利用目的に沿った管理運営を行う。</p>	○